

# 人間には想像力がある

今回の意見陳述は「諫干」へのこれまでの取り組みを集大成するつもりで10分間の原稿としました。以下お付き合いください。

\*\*\*\*\*

松坂 昌應と申します。

## 1. 貧乏な市議員

私は島原市の森岳商店街で写真業を営むかたわら現在市議会議員をしております。6年目です。島原は18年前雲仙普賢岳噴火災害に見舞われ、もともと寂れつつあった商店街は大きなダメージを受けました。災害は長期化し、いつ被害が拡大するかわからない町からは人口が流出し、仮設住宅に移った住民も家財などは買い控えました。日用品や必要な電化製品は全国から義援物資で届けられ、地元の商品は売れないという皮肉な状態が続きました。間接被害の極みでした。

家を追われ家族を失った直接被災者ばかりに目が行き、これだけ因果関係がはっきりしているのに、間接被害に対して、行政の目は届きませんでした。

当時、私は森岳商店街の事務局として、白黒の塗り絵ポスターを1枚10円でコピーして、子どもたちに色を塗ってもらい貼り出しました。売り出しポスターではありません。お客さんが来なくても、せめて元気に声を掛け合おうと「挨拶運動」のポスターでした。私は貧乏な商店街仲間と支えあってあの災害を乗り越えたことを誇りに思っています。

21世紀になり市町村合併の時代を迎えました。行政のトップや議員たちが、住民を置き去りにして自分たちの保身に明け暮れる合併騒動に義憤を感じ、市議会議員選挙に立候補したわけです。

インターネットで情報発信しながら、手作りチラシに政策を書いて、ハンドマイク一本で、市内全域を訴え歩きました。選挙カーを使わず、お金をかけなかったのが、かえって目立ったのか、同情を買ったのか、当選することが出来ました。

そんな私に相談に見えたのが、有明海の荒廃に苦しむ漁民の方でした。利権にくみする漁業

## 2009/2/9 福岡高裁：松坂の意見陳述

組合幹部や行政の理不尽な仕打ちに耐えながら、宝の海を子どもたちに残したいと訴える漁民の方たちでした。諫早湾干拓の問題を考えるようになったのはこの時からです。既に有明海が締め切られて5年が過ぎていました。私は遅れてきた人間です。

しかし、遅れてきたから見える真実もあるんです。貧乏だから見える真実もあるんです。私は市議になってなるべく多くの人話を聞くようにしました。尊敬する中坊公平さんになって現場主義を採りました。小野地区や森山地区の農民の方の話も聞き、中央干拓地の試験農場にも何度も足を運び、干拓事務所をお願いして調整池の中もボートでクルーズしました。そして客観的に申し上げます。長崎県知事さん、あなたは間違っています。

## 2. 李下に冠を正さず

島原で農業委員も歴任する同僚市議会議員に話を聞きました。「あの干拓農地で農業はできますか？」と問いますと、「地盤が軟らかくて、雨ですぐぬかるむし、塩が上がってきて農業なんかできるわけが無い。」と。そして「農協に頼まれたから営農希望のアンケートは出したけどね。」と続けました。

この議員は、その後私たちが「開門調査の請願」を提出した際、「排水門はこれまでも開けられなかったし、今後も一切開けてはならない。」と強弁し、私たちが調整池の水位をマイナス1メートルに保つための調整開門の被害に触れても意味が分からず、ならば本明川の水が潮受け堤防をオーバーするまで開けないのなら諫早は水没するぞと言われてようやく排水門の仕組みを知ったくらいですから、干拓農地の評価はいい加減な情報に基づくものだろうと推測できます。しかし入植する気も無いのにアンケートを出したことだけは確かです。

私は県にアンケート結果の開示を求めましたが、個人情報を守る盾に新聞情報程度しか示しませんでした。当時の西日本新聞の報道によると、約680haの干拓農地の3.5倍を上回る営農希望が寄せられている。とのことでした。しかも現金買取でも入植したいという希望は 延べ900haを